

## 『注射糖尿病治療薬 リキスミア皮下注』 サノフィ株式会社

参加者 松下 近藤 石橋 熊山 小越 佐藤 山内 小西 阿部 藤吉 梅津 木元

2007年のデータでは、糖尿病予備軍も含めると約2210万人もの患者がいる。糖尿病では、合併症が大きな問題となり、HbA1cが高くなると合併症発症率が上がることがわかっている。網膜障害、腎障害、末梢神経障害は3大合併症と呼ばれ、細小血管障害に分類される。また、大血管障害としては、心筋梗塞や脳梗塞なども存在する。糖尿病コントロールの主目的は、合併症の発症予防と進展の抑制である。合併症予防のための糖尿病コントロール目標として、HbA1cを7.0%未満にすることが2013年に熊本宣言で発表された。

## 【効能・効果】

2型糖尿病 ただし下記のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限る。

①食事療法、運動療法に加えてスルホニルウレア剤(ビグアナイド系薬剤との併用を含む)を使用 ②食事療法、運動療法に加えて持続型インスリンまたは中間型インスリン製剤(スルホニルウレア剤との併用を含む)を使用。

## 【用法・用量】

通常、成人には、リキシセナチドとして、20 $\mu$ gを1日1回朝食前に皮下注射する。ただし、1日1回10 $\mu$ gから開始し、1週間以上投与した後1日1回15 $\mu$ gに増量し、1週間以上投与した後1日1回20 $\mu$ gに増量する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、1日20 $\mu$ gを超えないこと。

## 【特徴】

- ・ 3つの作用により優れた食後血糖低下作用を示す
- ① すい臓ランゲルハンス島 $\beta$ 細胞よりインスリン分泌促進
- ② すい臓ランゲルハンス島 $\alpha$ 細胞よりグルカゴンの分泌抑制
- ③ 食欲抑制による胃内容排出遅延
- ・ 1日1回の投与でよく、固定用量である

## 【副作用】

主な副作用：悪心、低血糖、嘔吐等 重大な副作用：低血糖、急性膵炎、アナフィラキシー反応等

## 【考察】

GLP-1受容体作動薬という比較的新しい作用機序の薬剤であるが、2014年9月より投薬期間制限も解除され、優れたHbA1c改善効果や1日1回の定量投与のシンプルさなどから、今後使用頻度が上がるものと考えられる。現在は保険適用が狭い範囲で限られているが、最終的には『2型糖尿病』で併用薬の制限が解除される予定のため、副作用頻度の少なさから考えても、糖尿病治療の重要な位置を占めてくるものと思われる。

## 【質問】

リキスミアとランタスを併用する場合は朝1回でまとめたほうがいいのか？朝寝る前で分けたほうがい

いのか？→どちらでも構わないが、患者さんの CP を考えると朝 1 回にまとめて打つことを推奨。